

## 井真成の謎を追う

中国・西安の遣唐使墓誌〈8世紀〉

中国の古都・西安に埋もれていた遣唐使墓誌の歴史的な新発見を記念するシンポジウムと市民セミナー(いずれも実行委員長は荒木敏夫文学部長、朝日新聞社共催)が1月28、29の両日、開催された。墓誌を発表した西北大学と国際交流協定校である専修大学の共同研究プロジェクトとして両大学と国内のさまざまな分野の専門家が集い、唐代における「日中交流」の資料をひもとき、成果を発表した。訪れた延べ1100人の聴衆は、墓誌に刻まれた171文字と日本人留学生「井真成(せいしんせい)」を取り巻く謎を追い、1270年前の彼の地に思いを馳せた。

西北大学と本学の共同プロジェクト

シンポとセミナーに1100人



▲超満員の聴衆で埋まった市民セミナー  
(29日、神田キャンパス)



▲シンポジウムの全体討議(28日、有楽町朝日ホール)

28日のシンポは「新発見 遣唐使の墓誌をめぐって」と題し東京・有楽町朝日ホールで、29日は「墓誌新発見記念市民セミナー」として神田キャンパスで日中両国からの報告が行われ、2日間あわせて15時間の“マラソンシンポ”となった。墓誌の発見発表(昨年10月10日)から3カ月後の開催という短い準備期間だったが、歴史学、考古学、宗教史、古文献学、唐詩、書道史など多岐にわたる専門の各講師からの研究報告は密度が濃く、今後の本格的研究の礎となる重要な報告がなされた。

「井真成」墓誌検討シンポジウム、セミナーの報告者11人とテーマ



賈表明 西北大学  
文博学院副研究員(歴史博物館副館長)「井真成墓誌に関連する問題の基礎的研究」



王維坤 西北大学  
文博学院教授(国際文化交流学院副院長)「井真成の渡唐の歴史的背景と改名の問題」



王建新 西北大学  
文博学院教授(考古学系主任)「日本留学生と遣唐使」「井真成墓誌をめぐる諸問題」



方光華 西北大学  
文博学院教授(院長)「西北大学で考古学的に発見された文化財と古代日中文化交流」



土屋昌明(専修)



松原 朗(専修大)



亀井明徳(専修)



矢野建一(専修)

大学経済学部助教授)『井真成墓誌』の書道史的意義

学文学部教授)「唐詩にみえる『日本』」

大学文学部教授)「井真成墓の位置と構造」唐土に眠る遣唐使

大学文学部教授)「井真成墓誌と第10次遣唐使」井真成とその仲間



鈴木靖民(国学院大学文学部教授)「遣唐使『井真成』とその出自」



東野治之(奈良大学教授)「遣唐使と葛井氏」



気賀澤保規(明治大学文学部教授)「『井真成墓誌』をめぐる疑問と尚衣奉御」

墓誌をめぐる主に関心となる点となった。▽どこから出土したのか(発見は科学的調査によるものではなく、建設工事現場で地下から掘り出され人から人の手に渡ったため、いつ、どこで掘り出されたのかは未判明)▽墓誌銘の欠損部分の文字の解明。12行の銘文のうち3行から11行までの一番上の文字9字が欠損している▽墓誌銘の空白部分の意味▽「井真成」の日本名と出自の解明▽墓誌銘文には「国号日本」と記されているが、この墓誌を「日本」が使われた最古の文字資料と見なし得るか。墓誌の破損箇所への検討は、日中の各報告者から発表がなされ、いくつかの不明文字が解明されていった。墓誌の出土場所については、亀井明德本学教授から万年縣郭家難地域?水の「東」の原(崗)ではないか—との発表があった。井真成の唐朝での具体的な官歴が明記されず、墓誌本体の形状は粗末で小型(縦39.5×横39.5×厚さ10センチ)であり誌石面も空白が多いことは、外国人の立場にあったためとし、女官の墓誌に似たような形態が多いと報告されたが、気賀澤保規明治大学教授は「贈官」として「尚衣奉御」が贈られた背景には、墓主に近い人々の直接的な働きかけがあったのでは、と投げかけた。「井真成の日本名(姓)は」について、東野治之奈良大学教授は、遣唐留学生を多く輩出した「葛井(ふじい)」氏説を、鈴木靖民國學院大學教授は、改名に際し日本名の1字目を使う場合が多いことから「井上」氏説を打ち出した。

矢野建一本学教授は、墓誌銘から欠損している井真成の亡くなった日(正月某日)と、既に入唐した第10次遣唐使の一行は井真成と出会い、その葬儀に参列したのかを探った。当時は亡くなってから葬られるまで平均7カ月間を要したにもかかわらず2月4日慌ただしく葬儀を終えた事実や長安を襲った飢饉のため玄宗皇帝が第二の都市洛陽に避難した状況などから、命日は正月「一日」から「六日」までの間ではないかと絞り込み、第10次遣唐使は生前の井真成と会い、葬儀にも参列していたと考えられる、との見解を示した。

中国側報告者は、「国号日本」や倭国についての見解、日本からだけでなく周辺の各国からの使者たちの様子や生活ぶり、唐の人々の日本人への関心の深さなども報告。「井真成墓誌の発見で、彼のような無名の人に目を向けさせられたことは、我々の研究において重要なこと」(王建新教授)、「日本側の研究者の発言に深い啓発を受けた」(賈麦明副館長)、「解決部分もあれば未解決部分もあり、解明に力を注ぎたい」(王維坤教授)、「井真成研究の基礎固めとなった。日中両国の友好の歴史を振り返ることも出来て有意義だった」(方光華教授)との感想を寄せた。

会場は両日とも満席で、市民のほか研究者、マスコミ関係者も多く出席。シンポの様子は当日のNHKニュースで紹介された。

## 井真成墓誌

唐の都長安のあった西安で、717年に阿倍仲麻呂らとともに遣唐使に従って入唐しながら客死した留学生の墓誌が見つかった。この時代の日本人の墓誌が中国で発見されたのは初めて。大きさの違う蓋とともに発見された墓誌には、名前は「井真成」「国号日本」と171文字が刻まれ、生まれつき優秀で国命で派遣され勉学に励んだが、急病で開元22年(734年)に36歳で死去。魂は日本に帰るだろうといったことや、死を惜しんだ玄宗皇帝が高官の役職を贈ったことなどが記されている。

---

## マーチングバンド・バトントワリング全国大会

専大玉名高校－小編成部門で第1位金賞

専大北上高校－大編成部門で銀賞



▲専大北上高校(大編成部門)



▲専大玉名高校(小編成部門)

第32回マーチングバンド・バトントワリング全国大会がさいたまスーパーアリーナ他で開催、高校マーチングバンド部門(12月19日開催)で、専修大学玉名高校(熊本県・森宏校長)と専修大学北上高校(岩手県・黒沢勝郎校長)がアベック出場を果たし、玉名高校は小編成部門で見事第1位金賞(部門最優秀賞)、北上高校は大編成部門で銀賞受賞と大活躍した。各部門の第1位のみ演技することができるグランプリ戦で玉名高校は、より気合の入ったダイナミックな演奏を披露、満員の観客からは温かく盛大な拍手が送られた。

---

## 平成16年度卒業式・学位記授与式のご案内

日時 3月22日(火) 開式10時30分

会場 日本武道館(千代田区北の丸公園2-3)

詳細は卒業発表時の掲示、ホームページでご確認ください。

【ニュース専修2005年2月号1面】